

長野市地球温暖化対策地域推進計画(平成26年4月改定) 【資料1】

1 計画見直しの背景

- (1) H21.12の策定から4年余が経過
- (2) 国際機関(IPCC)から、人為起源により平均気温の上昇等、**地球温暖化がさらに進んでいることが指摘**
- (3) COP19で**国の新たな短期目標を表明**

2 計画見直しのポイント

■長野市環境審議会及び同専門部会で審議

- (1) **市民、事業者、行政の役割の明確化**
各施策に指標を設け、実施主体(市民、事業者、行政)の役割の明確化
- (2) **計画目標の明確化**
短期・中期・長期それぞれの視点に立ち、目標値を設定
- (3) **計画の適応性の向上**
毎年、進捗状況を評価。周知に併せ、市民意見を取り入れ、毎年見直し
- (4) **周知方法の工夫**
排出量の確定値は直近で3年前のもの。確定値とは別に、速報値として前年度の排出量を翌年の早い時期に、各事業の進捗状況等を含め公表

3 平成22年度の部門別温室効果ガス排出量

- 業務部門、家庭部門、運輸部門の3部門で約8割
- 基準年度(H17年度)比で、全部門減少、全体で16.4%の減少
- H2年度比で、業務部門と家庭部門が増加

▽部門別排出量表

※四捨五入表示のため合計数値が不一致

部 門	①【基準年】 (H17年度)		②【最新値】 H22年度		③ 基準年度比 (%)	④ H2年度比 (%)
	(t-CO2)	割合(%)	(t-CO2)	割合 (%)		
製造・建設・鉱業 (第2次産業)	397,944	16.7	361,683	18.2	▲9.1	▲28.5
業務(第3次産業)	810,702	34.1	599,369	30.2	▲26.1	24.0
農林水産業 (第1次産業)	54,004	2.3	47,771	2.4	▲11.5	▲19.9
家庭	487,078	20.5	416,397	21.0	▲14.5	12.4
運輸	547,041	23.0	505,205	25.4	▲7.6	▲1.1
廃棄物・排水	79,773	3.4	57,083	2.9	▲28.4	▲0.4
温室効果ガス 排出量合計	2,376,543	100	1,987,509	100	▲16.4	▲0.7

4 計画の基本的事項

- (1) 計画期間 H26年度からH62年度まで
 (2) 削減目標等(新たな削減目標を設定)

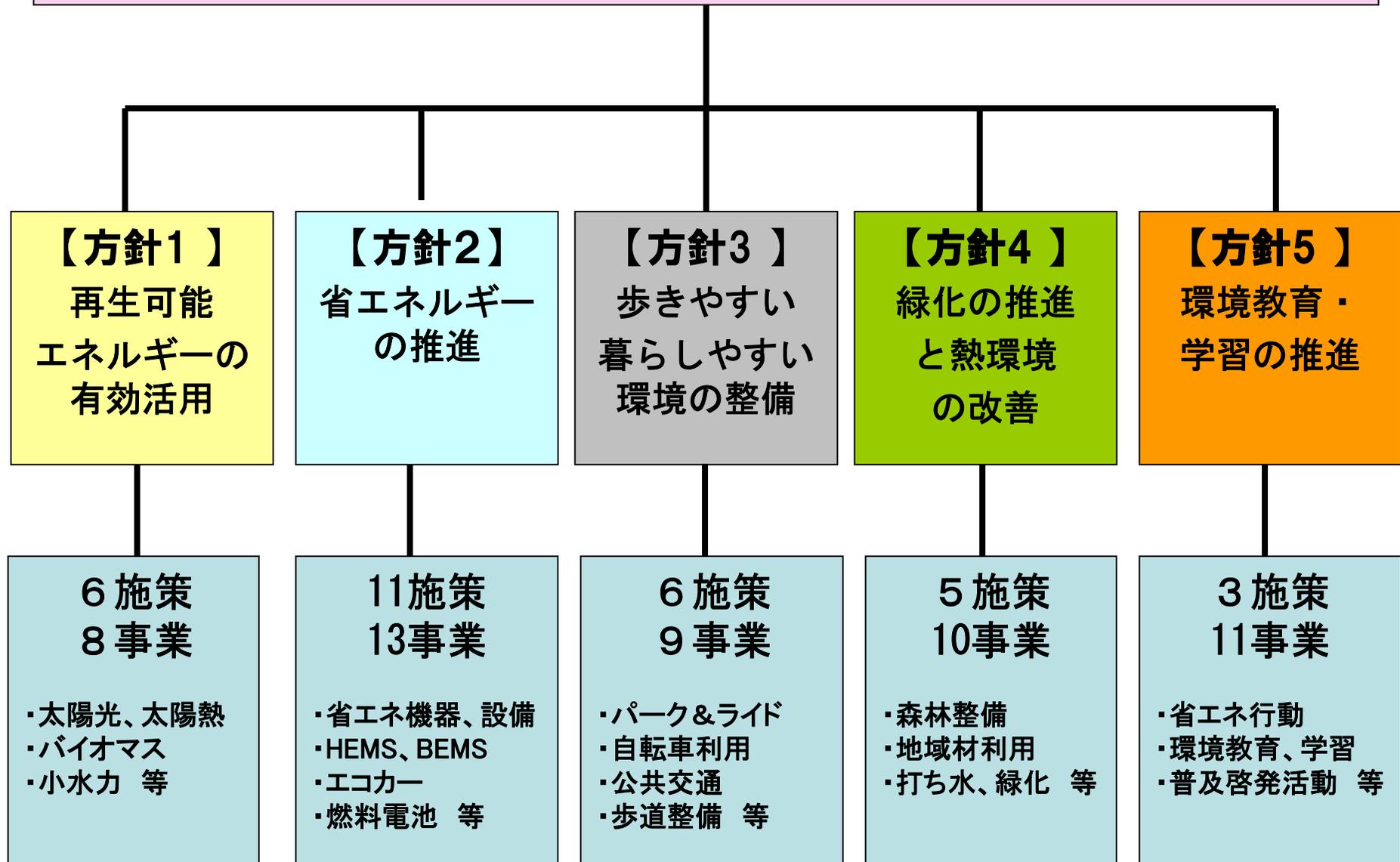
		国	長野県	長野市
CO2排出量 (22年度・人)		9.8t	8.0t	5.2t
策定年		H22年1月(前回公表) H25年11月(COP19)	H25年2月	H21年12月策定 H26年4月見直し
基準年		H17年度	H2年度	H17年度
削減 目標	当面			H28年度 ▲15%
	短期	H32年度 ▲3.8% (※H2年度比▲25%)	H32年度 ▲10%	H32年度 ▲20%(▲15%)
	中期	—	H42年度 ▲30%	H42年度 ▲30%
	長期	H62年度 ▲80% (※H2年度比)	H62年度 ▲80%	H62年度 ▲60%
計画根拠 取組等		<ul style="list-style-type: none"> ●地球温暖化対策推進法(H10) ●地球温暖化対策の税(H24.10) ●固定価格買取制度(H24.7) 	<ul style="list-style-type: none"> ●環境エネルギー戦略 (第三次長野県地球温暖化防止県民計画) ●地球温暖化対策条例(H18) 	<ul style="list-style-type: none"> ●地球温暖化対策地域推計画

【削減根拠】

- 増加傾向の業務部門・家庭部門は年1%以上の削減
- 長期目標は、推計値、国・県の目標や継続性等を考慮し、現行計画同様の基準年(H17)比▲60%(=京都議定書基準年(H2年度)比▲50%相当)

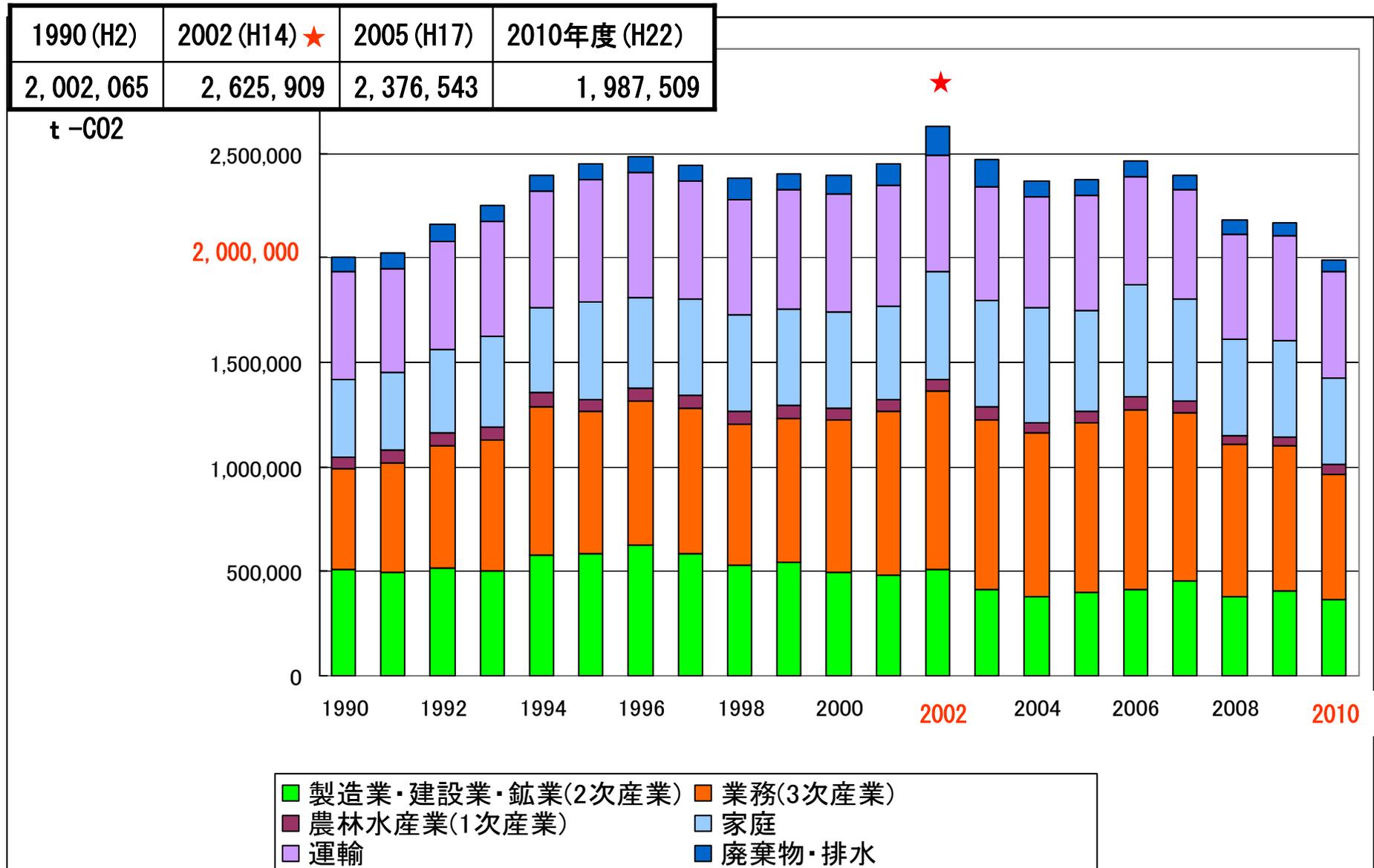
5 方針・施策

削減目標に向けた取組【5方針31施策51事業】



【参考】平成22年度長野市域の温室効果ガス排出量の推移

H14年度をピークに減少傾向にあり、
最新値の2010年度(H22)は、H2年度以降初めて200万トンを下回った



【参考】長野市が目指すH62年度の姿

【家庭の姿】 ヘムス (HEMS※¹) の導入、太陽光発電、蓄電池、トップランナー機器※² 使用等、化石燃料に頼らない、災害にも強い次世代住宅で生活

※¹ **HEMS:家庭のエネルギー管理システム** 家庭の機器・設備等の運転管理によりエネルギー消費量の削減を図るためのシステム

※² **エネルギー消費効率が最も優れている機械器具** 自動車、電気・ガス石油機器 (家電・OA 機器等) で、商品化されている製品。現在、特定機器として26機器が指定

【事業所の姿】 ベムス (BEMS※³) の導入、建築物のエネルギー起源二酸化炭素排出量ゼロを目指す、**ゼロ・エミッション・ビル**※⁴での事業活動

※³ **BEMS:ビルも管理システム** ビルの機器・設備等の運転管理によりエネルギー消費量の削減を図るシステム

※⁴ **年間のCO₂排出量がゼロとなる建築物** 建築物におけるエネルギー消費によるCO₂排出量を、建築物・設備の省エネ性能の向上と敷地内の再生可能エネルギーの活用等により削減

【まちの姿】 自転車人や公共交通機関を利用する人を多く見かける。まちを走る車は減少し、二酸化炭素を排出しない**燃料電池車**※⁵が普及

※⁵ **水素を燃料とし空気中の酸素と反応させ発電して電動機を駆動する車両** その他、天然ガス車、電気自動車、メタノール車などがある。